

SAIWAI. com

幸支部授業研究会(常任委員授業)

11月16日(水)に古川小学校にて第3回幸支部授業研究会が行われました。授業や会場の準備をしてくださった古川小学校の職員の皆さん、ご多用の中、参会された皆さん、ありがとうございました。研究協議では、グループでの話し合いで活発な意見交換がなされ、研究を深めることができました。また、講師の先生からは、体育の学習を考えていくうえで参考になる助言をいただきました。

以下、提案内容について、多くのご意見、ご感想をいただいた中で、主だったものをいくつかお知らせさせていただきます。

《6年生 ポール運動 ベースボール型「ティーボール」

～走って、投げて 目指すところはただ1つ～》 佐久間 貴佳 先生

研究協議 ○感想や意見など △改善点など ◎質問に対する回答・授業者より

※全体での協議の時に話題に上がったところをお知らせいたします。

【ルールや場について】

○ゾーンに分かれているので、走る場所が分かりやすかった。

△走者は走る場所が決まっていた。もっと遠くの塁まで走れる工夫があると良かった。

△守備者の人数とコートが大きさが合っていないと打つ場所がないのではないか。また、そのことが関係あるのか守備者でボールに触れない子がいた。

→守備者の人数を減らす。もしくはこのままいくなら、1回と2回で守備位置を変更するなどの手立てもとれる。

△これから先、ゾーンを撤廃していくなどの工夫があってもよい。

【残塁システムについて】

○残塁システムが導入されて子供たちの動きがどうなったのか？

→◎残塁システムが導入されてから1点の重みが増した。打順に今まで以上にこだわる姿や打ち方、作戦の深まりなども見られた。また、守備においてもできるだけ進塁させないように作戦を試行錯誤している様子が見られた。

→△残塁システムがあったことで、守備面で得意な子だけが、積極的になってしまうチームがあった。

【教師の声かけについて】

○自分たちのチームがどういった特徴があるのか分かるような声かけをしていてとても良かった。(価値づけたり、なんでそう思っていたのか理由を子供に言わせたり。)

○常に子供に考えさせるような声かけが多かった。

【内容の系統性について】

○中学年の遊びから高学年の運動へのつながりはとても大事になってくる。何を身に付けて、どのように学んでいくか考えることが大切。

< 体育の授業について >

- ・まずは体育が好きになるように、すべての子供が「できた」といえるような手立てをとる。
- ・体育の授業では、運動に意欲的に取り組むことが難しい児童への配慮を重要視し、すべての子供の心や体に優しい体育学習を考えていく必要がある。
- ・体育的強者（体育の得意な子）にのみ反応する指導者ではなく、居心地の良い学級、自己学習力を重んじる指導者に。
- ・始めの必要のない説明と振り返りの単なる発表ではなく、その時間で他にできないことがないか考える。
- ・内容の伴わない話し合いにならないように、指導者は関わり合いの明確な意図を伝え、子供は理解していることが大事。
- ・「価値の高い教師の声かけ」を意識して発信し続けること。
- ・深い学び・・・安心して学び直しができること。（失敗しても温かい雰囲気です）

< 子供のめあてについて >

- ・自分に合っためあてになっているか？チームならチーム全員が納得しているか？を把握する必要がある。チームならば一部の体育的強者（体育の得意な子）の意見に偏らないこと。

< ティーボールの学習について >

- ・今回の学習では、得点アップ（攻撃）よりも、得点阻止（守備）をチームとしてどうするのかという思考力の育成の比重が高い。
- ・カリキュラムで中・高学年をつなぐことがとても大事。今回の実践から見えたことは、例えば「塁間を全力で走る」という課題は→中学年のティーボールで十分に行い、高学年では別のねらいをもって行うといった学習の道すじも考えられる。

< 教師の声かけの質について >

- ・教師は質の高い声かけをする必要がある。その質の高い声かけが、子供に浸透してクラス共通の学習言語となり、子供たち同士の声かけも質の高い声かけになる。今回の授業では子供が考えられるような声かけはできていた。しかしもっと質を上げることはできる。幸支部にはさらに研究として深めていってほしい。
(一方、子供の思考の方向が違っていたならば修正すること。修正が必要な人に瞬発力をもって)
- ・子供の良いプレーをその子だけでなく、指導者は、他の子にも意図的に伝えること。さらにクラス全体で共有することで有用感を育んでいってほしい。
- ・「そのために」は思考を促すキーワード。

< ボール運動などの集団スポーツについて >

- ・集団スポーツでは、学級経営が如実に表れる。チームワークが円滑に育っていれば、振り返り時のチームは丸くなって話し合いをしている。さらに相手のチームとの振り返りができると取り深い学びに通じる。そしてめあてに沿って振り返ることができているか。人間性を育む観点も忘れずに。
- ・集団スポーツの楽しさは「低学年」では勝つこと。「高学年」になるにつれて、チームワークや競い合うゲームそのものと考えることができる。